

## 第2回中国大学生「走近日企・感受日本」 訪日団報告書の刊行にあたって

本書は、「走近日企・感受日本」事業の第2回訪日団の報告書です。

「走近日企・感受日本」事業は、中国日本商会在2007年から始めた中国人大学生を日本視察に招聘する社会貢献事業です。未来の中国を担う若い世代に日本及び日本企業を知ってもらうことを目的に、中国日本商会の総意で実施が決議され、会員有志企業の寄付金によって費用を賄っています。

第1回訪日については2007年5月から6月にかけて実施され、人民日報に記事が掲載されるなど、各方面から高く評価されました。

第2回訪日団は、北京大学、北京工業大学、北京郵電大学、北京航空航天大学、天津の南開大学の5大学の学生30人が参加しました。

一行は11月26日に北京空港を出発、12月5日までの10日間、日本に滞在しました。視察先は企業では、オムロン太陽工場（京都）、トヨタ自動車工場・トヨタ会館（愛知）、資生堂鎌倉工場（神奈川）、新日本石油根岸製油所（神奈川）、NECブロードバンドソリューションセンター（東京）、住友商事東京本社（東京）、みずほコーポレート銀行東京本店（東京）、ANA機体メンテナンスセンター（東京）の8社。その他、農村見学として榎野菜クラブ（群馬）、大学生との交流として早稲田大学を訪問しています。さらに、一泊二日でホームステイ体験も組み込まれております。ホームステイには30家庭が協力いたしました。ホームステイ受け入れに協力した企業は17企業（アルプス電気、伊藤忠商事、キヤノン、資生堂、新日本製鉄、住友商事、全日空、トヨタ自動車、日本航空、日立化成工業、松下電器、マルチメディア振興センター、丸紅、みずほ、三井物産、三菱商事、三菱東京UFJ銀行）にのぼっています。

このように「走近日企・感受日本」事業は、寄付各社のボランティア的な協力によって実施されております。また、共催団体である中国日本友好協会はじめ中国側にも全面的な協力をいただいておりますし、訪日団の日本受け入れ、本報告書の編集にあたっては、財団法人日中経済協会にご尽力をいただいております。加えて、寄付金の管理については、中国側では中国友好和平発展基金会に、日本側では財団法人貿易研修センターにご協力をいただいております。

改めて、本事業実施にご協力、ご尽力いただいた皆様に御礼申し上げますとともに、今後とも関係機関との連携し、本事業を実施していくことをお約束したいと思います。また、訪日団に参加した学生のレポートを中心とする本報告書により、日本商会の社会貢献活動の一端についてご理解いただければ幸甚に存じます。

中国日本商会 会長 北川 信夫  
2008年3月